

平成23年度 第2回社会教育委員会議 会議録

平成23年9月2日(金) 13時00分 町立図書館及び内藤秀因水彩画記念館視察。
14時00分 庄内町西庁舎「第二会議室」に社会教育委員を招集し、社会教育委員会議を開催。

1. 出席した委員は次のとおり。

富樫良秋、齋藤良一、堀江信、椎名和美、佐藤富美、佐藤啓子、石井玲子、志田征子、田澤啓二、志田啓子、廣田幸記、今野美枝子

2. 欠席した委員は次のとおり。

井本美和子、 秋葉俊一

3. 出席した職員は次のとおり。

社会教育課長吉田健一、課長補佐阿部勉、主査兼社会教育係長佐々木弘喜

4. 会議の次第は次のとおり。

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 協議
- 5 その他
- 6 閉会

5. 協議事項は次のとおり。

- (1) あいさつ運動の推進について
- (2) 教育委員会外部評価について
- (3) その他
 - ・山形県社会教育研究大会について

6. 会議の内容は次のとおり。

14時00分 開会

富樫議長

前回の会議で要望があった、町立図書館と内藤秀因水彩画記念館を視察させていただいた。台風で蒸し暑いのも忘れる爽やかな水彩画だった。

社会教育課長

総合型スポーツクラブ設立準備委員会の不適切支出についての説明と謝罪。

議事録署名委員に石井玲子委員、志田征子委員を指名。

(1) あいさつ運動の推進について

課長補佐

(あいさつ運動のこれまでの経過、各学校でのあいさつ運動の取り組みを説明。)

委員

小さい子供も頑張っている。幼稚園も年間あいさつに取り組んでおり、載っていないのが残念。

富樫議長

あいさつすることで、大人も変わって来た。あいさつする子の親もしっかりあいさつする。学校では標語を募集して、立看板を集落、公民館、小学校へ掲げて頑張っている。

委員

学校ではあいさつリーダーを決めて行っており、毎日あいさつに囲まれた環境の中で習慣化できれば良い。

富樫議長

小学校も幼稚園も中学校も前々から取り組んでいたわけだが、今年は一斉に、商工会の呼びかけに対して、町、教育委員会も一緒になって取り組む。

委員

学校や公民館、幼稚園の単発の動きを繋げていくのが社会教育と思うが、庄内町としての方針はどういう形になっているのか。

委員

前からあいさつ運動をみんなで推進して来ており、今回の運動が始まってあいさつしてくれるので変わっていない。再認識として取り組みは良かったと思う。保育園の子どもに大きな声であいさつするように教えている。

委員

子供はよくあいさつするし、高校生でもあいさつするが、親があいさつをしない。親からの教育が必要だと思った。

委員

こちらから、あいさつをしなければならぬ、気持ちを沸き立たせるような働きかけが必要で、地域の人にも自分の方からあいさつをすることで、あいさつの輪が広がる。取り組みの目標はあるが、運動に取り組んでどうなって来たかが見えない。

富樫議長

教育委員会として、各施設等を集約してみることも大事では。

社会教育課長

社会教育としては、あいさつは人と人を繋ぐ基本だと捉えている。あいさつをすることで相手も変わってくれるし、自分も気持ちよく接することができる。社会教育の中に特に出てこないが、人間としての基本として捉えている。教育委員会の重点と施策の中で、社会教育、学校教育共通の実践課題として、社会で育てる子ども像に向けての実践の共有化で、あいさつ運動等を取り上げている。

委員

酒田のある集落に行ったとき、見ず知らずの人から大きな声であいさつされたが、集落全体で習慣化しているのではないかと感じた。親子でも難しいが、あいさつの基本は、家庭が大事なのでは。

委員

子どもはあいさつする。親子でもあいさつを何気なく言えることが大事。男の子は、分かっているけど恥ずかしいようだ。

委員

到達してほしい所は、ごく自然にあいさつができるようになること。生徒が昇降口であいさつ運動をしているが、メッセージボードに大きな声で、笑顔で、等を書いて、それを見

てあいさつしている。声が出なかったら会釈でも、何かしら伝わるメッセージがあればいいのでは。大人の課題もあるが、保護者のあいさつも良くなってきている。決められた場所では出来るが、他で出来ない等、応用が利かないところもある。あいさつ運動について、幟旗は立っているが、6／1以降町全体の取り組みが無く、それぞれの事業所に任せきりになっている。教育委員会、社会教育として、どう取り組んで行くのか。節目節目でチェックが必要では。

社会教育課長

今までもしてきたことだし、あいさつで心が繋がりに、子どもの教育のために運動の取り組みを協議したが、中間報告などの相談はしていない。

委員

交通安全の指導と一緒に取り組んでいて、月初めはPTAも参加している。始まったときは、月に一度ぐらいの運動を盛り上げる動きがあってもいいのではと思った。

委員

東京から来た人が、ある町であいさつされ、良い気持ちになり新聞に投稿した記事があった。町の取り組みとして、単発では色々あるが広がりが無い。取り組みを繋げていくのが委員会の役割では。

委員

余目中学校で取り組んでいたことが、今度町全体に広がったと伝えた。もっと自信を持つようにと話をした。校内の運動も、もっと盛り上がる期待感もある。

富樫議長

経過はあったが、1年で終わってはやったとはいえないのでは。課題を出しながら、町としてもっと盛り上げていただきたい。

(2) 教育委員会外部評価について

課長補佐

(資料について説明。)

委員

余目第一公民館から第四公民館まで評価があるが、立川地域とか、7つの公民館それぞれの評価はないのか。

課長補佐

教育委員会の重点と施策を切り口に評価をお願いしたが、7つのうち3項目について評価をいただいた。外部評価として3年の計画で評価をしてもらうので、今後それぞれの評価をお願いしたい。

委員

良い所を認めていただき、足りないところを指導してもらうのが評価だと思うが、どのようなお願いをしたのか、詰めの甘さを感じる。

富樫議長

評価の仕方が分からないし、評価する人がどのように聞いたのか分からない。

課長補佐

教育委員会の重点と施策の社会教育7つの中なかから3項目について評価をしていただいた。文化創造館の運営の仕方、図書館の運営、公民館についても一部入った。7つの公民館に調査を行ったのかも確認してないので、確認しながら評価の方法も検討したい。

富樫議長

内容は分からないが、第二公民館には来たと聞いている。

委員

外部の先生に評価していただかなくても、視聴覚の第一公民館等、公民館の特徴は誰にでも分かる。外部の先生に何を評価していただきたいのか。何が足りなくて、これからどうしたらもっと良くなるかだと思う。

課長補佐

事務事業評価として内部評価はこれまでも行ってきた。外部評価になるか分からないが、振興審議会文教厚生委員の方をお願いしてきたが、評価は難しいとのことであったので、初めての試みとして教育経験のある方に外部評価をお願いした。

委員

図書館の評価もあるが、改装はいつ頃になるのか。一度靴を履き替えなければならない等、利用しているがとても入りにくい。自然と入れるような施設にしてほしい。

課長補佐

図書館建設の話は、今年度に社会教育施設等の整備について懇話会を立ち上げて、優先順位、年次計画等について意見を伺う予定。

委員

「社会教育は人づくり」の観点から、資料による評価より、各公民館の事業を企画した熱い願い、思いをしっかりと聞き取らなければ、課題が出てこないのではないかと。どれほどの時間をかけたのか分からないが、片手間になっているのでは。

課長補佐

求められた資料は、出来る限り出して、現場に出向いて聞き取りをして評価する方法を取っている。なかなか時間が取れなかったことはあると思う。

委員

いつまでまとめなければならぬ理由があるのか。

課長補佐

9月議会に報告しなければならない。

委員

それぞれ頑張っているところもあり、公民館全部見てほしい。これから直して行かなければならないところをご指導いただきたい。

社会教育課長

余目地域の公民館は、特色を持たせて取り組んできた。今、立谷沢公では町民大学は自然学部、清川は歴史で事業展開、狩川は図書館とパソコンに力を入れている。今後の事業評価に強く出していきたい。

委員

地域のおいたちがあって、それぞれの特色はいいが、庄内町の社会教育の基本がないといけない。余目は4館で、集落の活動もできる体制でやってきた。外部から見て助言をもらうことが大事である。

富樫議長

公民館にも説明はしているのか。

社会教育課長

2、3日前に教育委員会に諮ったものでまだ説明はしていない。

富樫議長

今年度の外部評価をどのように活用するのか。

社会教育課長

細部まで意見交換が終わってないが、先生方と一回意見交換はしている。事業の中で活かせるものは直していく。

富樫議長

第一弾としてはいいが細かいところが無いと。

委員

栄寿大学は今まで制限するほどだったが、今年は30人しかいない。末端の老人クラブに若い人が入らない。社会的な問題が沢山あり、そういう流れになっているが、考え方も変えていかなければならない。

委員

老人クラブの7割が連合会から離れた。横の連携が無くなり、部落の活動に留まっている。松寿大学も毎年20～30人減っている。仕事をしないと生活ができない。趣味や嗜好が変わって来ている。若い人は、パソコンのインターネットで時間を使っている。

委員

世代交代の過渡期と思うが、昔は村や地域の活動に入らなければならないという考えがあった。

委員

芸文協も会員に若い人が入らない。会員が減るということは高齢化していく。

委員

もう少し足してもらいたい内容的もあるが、これから課題も出てくるだろう。これは外部から見てもらったということで価値がある。これはこれとしていいのでは。

富樫議長

これからどうしてほしいという、要望があれば出してほしい。

委員

栄寿大学の加入条件、老クの会員でなければ入れないという枠がネックになっている。枠を広げたらどうか。

委員

当初は集落の老クからの推薦で入ってきた経過がある。

社会教育課長

響でまとめており、老人クラブとの話し合いもあるので検討させたい。

委員

栄寿大学のシステムが一般に分かっていないのでは。改善できることをやれば会員も増えると思う。

委員

栄寿大学と違い松寿大学は卒業がない。講師の選定が困る。会費をもらうことも考えたが、会計の役職や決算報告もあり断念した。

(3) その他

委員

南三陸との交流事業を紹介していただきたい。

社会教育係長

8/9～11に行われた小学生国内交流事業について説明。南三陸町が44名、庄内町から24名の参加で交流が行われた。

課長補佐

10/28 予定の山形県社会教育研究大会の概要説明。

分科会の出席取りまとめを行う。

16時30分 閉会